

第3章 第1回ワークショップ

1. ワークショップの概要

日時：2006年10月21日 13:30-16:00

場所：南外院住宅自治会館

講師： 小浦久子（大阪大学大学院工学研究科助教授）
松村暢彦（大阪大学大学院工学研究科助教授）
岡絵理子（関西大学工学部専任講師）

出席者：

居住者1

居住者2

居住者3

箕面市役所職員1

箕面市役所職員2

箕面市役所職員3

箕面市役所職員4

飯田（大阪大学学生）

菅原（大阪大学学生）

西野 奈那（関西大学学生）

勝川 敬子（関西大学学生）

後岡 里沙（関西大学学生）

林 優也（関西大学学生）

福本 優（関西大学学生）

次第

1. 昨年調査の報告(資料1)

岡 絵理子

2. クルマと生活(資料2)

松村 暢彦

2. 参加者の発言記録

クルマへの依存について

・ライフスタイルによってクルマへの依存度はずいぶん違う

現役で働いていたときと、リタイアしてからでクルマへの依存度がずいぶん違う。

現役のときは、毎日公共交通を利用して仕事場に通っていた。

むしろ、家にいる主婦はクルマに依存して生活していると思う。

今は、用事のあるときに車を使うだけ。

- ・外院南でクルマを持っていないのは、駐車スペースがない人が、運転できなくなった人。
- ・環境のためにクルマに依存しないという考え方は、浸透していない。
- ・日常的な生活と、広域的な移動については分けて考えなければならない。

公共交通の利用

- ・クルマに依存しないようにするには、心に訴えることが大事
箕面のバス路線は、決して不便ではない。座ることもできるし、むしろ便利。
- ・公共交通を使おうと思うと、どうしても一度ターミナルにでなければならない。遠回りになって、不便。
- ・クルマで行くか、バスで行くかは、目的地によって使い分けるが、むしろ歩いていけるところも車を使う。
- ・バスは、大阪市内の地下鉄のように頻度が高くない。
- ・バス停の施設が貧弱で、待ってられない。本当に来るのかと不安になる。

歩く目的

- ・歩くのは、どこかへ行く目的があるときではなく、健康のため。健康のためにだけ歩く。
- ・歩いてかまわないと思う距離は 1.5 キロまで。

好きな道

- ・外院南の縦に走っている幹線道路が好きな道に上がるのは、あそこだけが歩道のある道で安全だから。
- ・京都や奈良の町、また大阪の町は、ちょっと雰囲気味わうために歩くこともあるが、外院南住宅地をぶらぶらと歩く気にはならない。

自転車の利用

- ・外院南は自転車を使うには傾斜がきつい。
- ・アシスト付自転車が普及すると思う。

高齢者とクルマ

- ・歳をとると、車を運転する回数は減っている。むしろ長距離には使わなくなった。

・高齢化して、クルマに乗れなくなったら、この町から引っ越して駅前のマンションに住むつもり。

・外院南は坂がきつい。車椅子になったら、街に出られなくなるのではないかな？

家の近くにあったらいいなあと思う施設

・思いつかない。家の近くの居酒屋は行かない。

外院の町の難点

・雪が降ったら、滑って歩けない。

外院のこれから

・健康のためだけでなく、歩いていて楽しい町にしたい。

・人との出会い、新しい発見のある町。

・住宅地は地域意識が生まれにくい。

自分の育ってきた町の魅力を説明できない自分。

車での生活が悪かったんじゃないかな？

自分の町のことをあまりに知らない。

・子供たちが住まない。

ふるさと意識を持たない。

ふるさと意識が育たない。